

部活を考える

－部活と勉強は両立させるべきか－

開倫塾

塾長 林明夫

1. はじめに

あらゆる教育機関で学ぶ学生・生徒にとってたえずつきまとう大きな問題の一つは、勉強とそれ以外の活動との両立が可能かということです。

小・中・高生にとっては、部活動と勉強との両立が果して可能かという問題が出てきます。

似たような問題は社会に出てからは、本来の自分の仕事と、自分の趣味やスポーツの会、会社のサークル活動、隣組、育成会、PTA、社会貢献活動、ボランティア活動等の「非営利組織の活動」をどのように両立させるか、という問題となって出てきます。

本来の勉強や仕事のほかに、他のことをどのようにやり抜くかという問題ですから一生ついてまわりますから、「部活と勉強の両立問題」は一人ひとりの「生き方」の問題の一つとも言えます。

ただ、是非とも覚えておいて頂きたいことが一つだけあります。勉強や仕事のほかに、何かすることが日本の国中の人ができるなどということは、日本の歴史上かつてなかったということです。学齢期になって自分の好きな「勉強」が思いきりできること、学校を卒業後自分の好きな「仕事」が思いきりできることは、今までの日本の歴史の上ではほとんどなかったことです。識字率 99.8 % (非識字率 0.02 %)、失業率 2.3 % の国は世界の中で日本だけです。やりたい勉強が好きなだけできて、字が読める人が 99.8 % までいっている、働ける人のうち仕事についていない人がたったの 2.3 % しかない国など世界中日本以外ありません。ある一定の年齢になったら学校に行って「勉強」ができる、学校が終わったら好きな「仕事」につくことができることだけでも、日本の歴史はじまって以来のことです。これに加えて、日本は一人あたりの国民平均所得が 3 万ドル近くまでになり、世界で最も豊かな国の一つになりました。「勉強」や「仕事」の他にいろいろなことができるというのは、日本の「豊かさ」のあらわれの一つです。世界中には、現在でも、「勉強」することもできない、「仕事」をもつこともできない人が何十億人もいます。「勉強」や「仕事」が何不自由なくできることに對し両親や、日本をここまでの状況にした先人への感謝を一時も忘れてはならないものと信じます。

2. 部活では自分のやりたいことをやること

せっかくいろいろな人のお蔭で「勉強」の他に「部活」までさせて頂くことが可能になったのですから、自分で本当にしたいことを本気ですべきです。「通知票や内申書・調査書をよく書いてもらいたい」からいやいや部活をするなどと決して考えないで下さい。何を本当にやりたいのかを十分考えてから部活は選んで下さい。

「一生を通じてやりたいこと」があれば、学生時代からスタートすべきです。学生時代だけしかやらないとしたら余りにももったいない。学生時代から基礎がためをし、死ぬまでやり抜くものを部

活として選ぶべきです。

「仕事」や「勉強」以外に一生を通じてやりたいことをいくつか決めその基礎がためを 10 代からスタートすると考えるべきだと思います。テニスも、野球も、バスケットもバレーも、柔道、剣道、サッカー、体操、卓球、水泳、陸上もみんな一生できます。楽器がひけたり、絵がかけたり、歌が歌えたり、おどりがおどれ、茶道や華道、書道ができることは、どんなに人生を豊かにすることかわかりません。

自分の学校以外にも、同じ市内、同じ県内だけではなく全国にも同じ志をもつ友だちがたくさんできます。技を極めれば外国にも行けます。同じ町内、市内からはじまって、県内、日本国内、海外にも「旅行」ができます。国内・国外の目的をもった旅行を通じて見聞を深めることができるだけでなく、熱心にやればやるほど行った先に同じ志をもつ友達をつくることができます。部活をきっかけに、国内外を旅行でき、同じ目的をもつ一生の友を国内外につくることのできるのです。ただ、外国に行けるレベルにまでなるには相当レベルをアップしなければなりませんから、余程自分の好きなものを選び、何年間もコツコツとやり抜かなければなりません。その意味で、被害者意識で部活を選んだり、やったりするのではなく、部活の中に、このような積極的な意味を見い出して頂きたいと希望します。

3. 「短時間で効果的に」

毎日のように「朝練」をし、放課後は 7 時ごろまで 3 時間近く練習、土曜や日曜は朝から晩までやって、地区大会で一回戦で敗けるようなら余程部活のやり方が不得手と言えます(はじめから地区大会や県大会の優勝チームとあたった場合は別として・・・)。

私は、中学時代は足利市立山辺中学校の柔道部にいましたが、中 2 の新人戦と中 3 の県大会で団体戦では優勝、個人戦でも県 2 位でした。指導して下さいました先生が非常に優れていたからです。その先生が指導なさったチーム・中学はほとんど県大会で優勝ないしそれに準ずる成績を上げていると伝えききます。

練習にはやり方があると言えます。すぐれた指導者のもとで練習することが最も大事です。ただ、これもめぐり合わせですので、余りぜいたくは言えません。

生徒が自分たちでやらざるをえない場合は、練習方法やその種目のコーチについての書物をできるだけたくさん買いこみ、徹底的に勉強すべきだと思います。

どのようにしたら、短時間で効果の上がる練習ができるか。ある一定のレベルまできたら、どうしたら相手チームに勝てるか…試合の勝ち方の研究も徹底的にすべきです。直接相手チームの研究も大事ですが、一般論としての勝負の仕方を研究することも大事です。

TV でよい試合や演技があったら必ずビデオにとること、近くで実際に見れる機会があったらどんどん見にいき、気がついたことがあったらビデオや写真にとり、メモもしてくること当然です。

部活の他に勉強もしなければならないのですから、どうしたら短時間の間に効果的な試合に勝てる練習ができるかに最大の目標をおき取り組んで下さい。

4. 先生・先輩・同級生・後輩と仲よく

部活の中でつちかった友情は一生つづきます。不思議なご縁でたまたま同じ部活に籍をおいた先生や先輩・同級生・後輩とは、部活が始まる前や、休み時間、終わった後は仲よくすごして下さい(部活の時間中は厳しくやること当然です。ダラダラお互いに甘え合ってやっていたら決して効果の上

がる練習はできないからです)。練習についての反省や指摘は、十分お互い同志すべきですが、人格非難だけは決してしないで下さい。

一生にわたる友情が部活でえられるように自分でも努力して下さい。

5. 部活は受験勉強にも役に立ちます

受験勉強といっても一日中できるわけではありません。ストレスを解消し友情を育て、健全な精神をつくるために部活は非常に役に立つと信じます。どんどんやるべきと思います。但し、練習方法を工夫し短時間で効果的にやり終え、ダラダラしないことがコツです。

「勉強」の他に「部活」までできる「現代の小中高生」は幸せです。このことも考え、是非「志を持続」し、一生かけて好きなことをやり遂げて下さい。